

蜂（ハチ）の生態と活動時期

蜂（ハチ）は蟻（アリ）の仲間で、日本では約4,000種類が生息しています。主に私たちが見かけるのが多いのは、**ミツバチ**、**アシナガバチ**、**キイロスズメバチ**の3種類です。

他にもオオスズメバチやクマバチなど地域によって見かけるハチの種類も変わります。

蜂の針ははるか昔産卵管として発生したもののなのでメスしか持っていません。なので、人間を刺すのもメスの蜂になります。雄バチには針はなく、結婚飛行以外は一生涯を巣の中で終える蜂もいます。

なので、普段私たちが良く目にするのは、働きバチであるメスとなります。

蜂の主な活動時期は**春～秋**の間です。特に次期女王バチ候補と雄バチの幼虫が成長する、8月～10月の間に活発に飛びまわります。

1匹だけの単独行動をしている時は、メスの働きバチは、刺激さえしなければほとんど刺すことはありません。その1匹は、縄張りを巡回する見張り役が任務です。その見張り役である1匹を触る、刺激を与えるなどすると**警告フェロモン**である毒液をだして仲間の働きバチに**SOS**信号を発信します。すると直ぐに集団で襲って来るのです。

しかし、スズメバチは他の蜂とは違い、特に刺激をしなくても巣が近くにある場合は攻撃をしてくる。特に注意が必要なのが**9月や10月**、スズメバチは秋が繁殖時期の為、より攻撃的になり凶暴になります。

さらに最近暑い夏、猛暑が続くため、スズメバチもたくさんの栄養が必要になり動きが活発になります。いつもより多く動くため、より人間を襲いやすくなります。



蜂に刺された後の処置と対処法と薬

①蜂の処置 針を抜く

蜂に刺された場合、まずしなければならないのが**針抜き**です。

蜂の針には、釣り針でいう「かえし」の棘（とげ）があり、ブスッと刺すと抜けにくくなっています。また、蜂の針の根元（お尻側）には、蜂の毒が入った袋がくっついて、じんわり毒が皮膚の中に染み込む仕組みになっています。

針が残っている場合は、すぐに安全を確保すると同時にピンセットや毛抜きなどで針を抜いて下さい。注意するポイントは絶対に蜂の針を手で触って抜かないようにして下さい。余計に毒を押し込む可能性もあり危険です。

②蜂の処理 毒を洗い流す、吸い出す

蜂の毒は水に弱い性質があるので、約5分程度洗い流しながら毒を絞り出しましょう。しかし水で洗い流すよりも、より確実に便利なものが注射器状の**ポイズンリムーバー（毒吸い出し器）**です。薬局や通販で購入する事ができ、安いものであれば約1,000円程度です。

アウトドアレジャーに行く場合は虫に刺される事も多く、何の虫に刺されたか分からない事もあります。ポイズンリムーバーがあれば、まずは毒を吸い出す事が出来るので、1つ持って行くと安心です。注意するポイントは口で毒を吸い出す事、大変危険ですので絶対にしないで下さい。

③蜂の処置 虫刺され用の薬を塗る

針抜きと毒抜きが済んだら、次は抗ヒスタミン剤配合のステロイド配合の軟膏を塗ります。蜂に刺された時に市販薬でお勧めなのが**ムヒアルファ EX**や**フルコート軟膏**、ブヨやムカデなど強いかゆみにも効果があります。他にも処方薬のリンデロンVG軟膏があれば塗ると良いでしょう。

④蜂の処置 刺された部分を冷やす

蜂に刺された部分は痒みや腫れがあるので、濡れたタオルなどで患部を冷やしましょう。そのまま冷やし続けて約30分以内に何事もなければ全身のアナフィラキシーショックの心配は少なくなります。

⑤蜂の処理 病院に行く

蜂に刺された跡は赤い腫れや痛みがでます。ミツバチなど毒性が弱いものであれば、そこまで心配する必要はありませんが、スズメバチなど毒性の強いものは毒の量も多く、他の蜂と比較しても症状が悪化します。

スズメバチに刺されたら必ず病院に行き、**皮膚科か救急病院**で治療を受けましょう。他にも症状がひどい場合や、蜂に刺されたのが2回目であれば、アナフィラキシーショック症状になる可能性があるため、**必ず病院にて治療を受ける**ようにしましょう。

蜂に二回目に刺された場合の症状と気をつけるポイント

蜂に1度刺された場合、**約10%の人がアレルギー抗体を持つ**とされており、**約20%の人がアレルギー反応であるアナフィラキシーショック症状を起こす**とされています。

残りの約88%は人たちは、ある程度の腫れや痛みで治っています。この蜂の毒のアレルギー抗体が出来てしまうと、2度目に刺された場合アレルギー症状が強くなります。

この為、1回でも蜂に刺された経験がある場合は、蜂に対してより注意が必要となります。2回目以降は、よりひどい症状が現れる可能性が高いと覚えておきましょう。

蜂に刺されない為の予防と刺される原因

蜂は単独行動の蜂を刺激さえしなければ、刺される事はほとんどありません。

例えば大声を出したり、近寄って来た蜂を手で追い払うなどは蜂の攻撃本能を刺激する事になる為、このような行動を取らなければ蜂は人間を襲う事はありません。

蜂の視界は意外に狭くて自分の真下である地面近くのものが見えません。なので、蜂を見つけたときは、そっと静かに姿勢を低くして蜂から離れていき、少し離れた場所に行くまで背中を見せないように離れましょう。約10m程度、その場から遠ざかれば安全地帯となります。

蜂に刺されない為の予防

蜂は人があまり近づかない薄暗い環境を好みます。なので、林の中や軒先、屋根裏、壁の隙間、庭木の陰など注意が必要です。人の気配を嫌がるので、その習性を利用するのが得策です。

また蜂は**白色系**を嫌います。特に山など出現率が高い場所に行くときは、肌を隠した白系の服装を着るのが良いです。逆に黒は蜂にとって標的になる可能性が高い色です。

蜂に刺されるのは、**暗色系のヒラヒラした服に、香りの強い香水や整髪料**です。フローラル系の香りなど蜂が好んで近づいて来るので、なるべく整髪料をつけないようにしましょう。

また、手にジュース飲料を持っていると近寄ってくる可能性が高くなるので注意しましょう。蜂はいきなり攻撃をしかけずに、必ず威嚇行動の後に攻撃態勢にはいります。この威嚇行動の一つに、スズメバチなどの大型バチはカチカチという音を鳴らします。蜂から逃げる場合は、必ず頭と顔を白いタオル等で隠すようにして下さい。頭や目、髪など黒い部分は蜂の標的になりやすい部分です。